

日本卓球リーグプレーオフ JTTLファイナル4 優勝



【写真提供：ニッタクニュース】

いつも温かいご声援をありがとうございます。

2021シーズンは、全日本選手権(団体の部)、後期日本リーグ、日本リーグプレーオフの3大会で優勝、また個人戦では、全日本選手権でダブルス2位という好成績を収めることができました。これも広島の皆さまの多大なるご支援・ご声援があったからこそその結果だと思っています。

今後も広島の皆さんに元気をお届けできるよう頑張りますので、引き続き応援をよろしくお願いします。

監督 伊藤 春美



後期日本リーグ最高殊勲選手賞受賞
井 絢乃 選手

【写真提供：ニッタクニュース】

中国電力女子卓球部

新監督就任 伊藤春美監督

中国電力女子卓球部 監督に就任いたしました、伊藤春美です。

入社以来、およそ5年間過ごした卓球部を離れ、社業に専念しておりましたが、このたび復帰することになりました。

創部以来、築き上げてきたものを継承しながら、さらに強く、そして皆さまに愛されるチームを目指して頑張りますので、応援よろしくお願いします。



新キャプテン 成瀬綾海選手

2021年度は2年連続で優勝を逃していた、日本リーグプレーオフで必ず優勝するという気持ちで練習に励みました。個人の實力向上はもちろん、ダブルスで確実に1点取れるよう重点的に取り組みました。その結果、後期日本リーグでは全勝優勝。そして日本リーグプレーオフでは年間王者を奪還することができました。さらに、重点的に強化したダブルスでは、全日本選手権大会という個人戦で、準優勝という結果を出すことが出来ました。

このような成績を残せたのは、地域や社員の方々、そしてスタッフとチームメイトのサポートがあり、とても良い環境で卓球に専念することができたからだと思っています。

2022年度の目標は、優勝したことのない前期日本リーグと全日本実業団で優勝です。今後も応援してくださっている皆さまに元気をお届けできるように、日々精進してまいりますので、引き続き応援よろしくお願いします。



後期日本リーグ優秀ペア賞受賞 (写真左) 成瀬選手、(右) 宋選手
【写真提供：ニッタクニュース】

引退選手のコメント

宋恵佳選手



現役最後の試合で、全日本の決勝という舞台で戦えたことを幸せに思います。キャプテンを任せていただいた最後の1年間はプレッシャーとの戦いでしたが、頼もしいチームメイトのおかげで、日本リーグ年間女王になることもでき、本当に良い経験をさせていただきました。入社以来8年間、良い時も悪い時も応援し続けてくださった皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。引き続き、中国電力女子卓球部をよろしくお願いします。



庄司有貴選手

最後の全日本では、自分の力を出し切り、最後まで楽しんでプレーすることができました。約5年間活動させていただきましたが、素晴らしいスタッフやチームメイト、いつも温かく応援してくださった皆さんのおかげで、幸せな卓球人生を送ることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも中国電力女子卓球部をよろしくお願いします。



さあ、ともに未来へ！



ラグビー部



女子卓球部



陸上競技部

中国電力ではシンボルスポーツ部の活動を通して、地域のスポーツ発展に貢献するだけでなく、夢に向かって挑戦し続けることの大切さを子どもたちに知ってほしいと願っています。

中国電力株式会社

<https://www.energia.co.jp/>

全国高等学校駅伝競走大会 大会最多11回目の栄冠で2連覇

広島県立世羅高等学校 監督・選手のコメント

男子監督 新宅 昭二



昨年、優勝させていただき、今年度も優勝候補として注目される中での1年間でした。選手達にはプレッシャーを感じさせまいと取り組んできましたが、私自身が大きな重圧と戦ってきました。「速さより強さ」というチーム目標のもと、選手たちはそれを見事に実現してくれたチームでした。当日走ったメンバーはもちろん、サポートに回った補員、その他多くの部員の「世羅高校陸上競技部」としての自覚と誇りの結集したレースとなりました。何より、地元世羅町の方々をはじめ、広島県内、全国で日頃より御支援いただいております方々とともに「チーム世羅」として勝ち取った駅伝でした。今後も応援されるチームであり続けることができるよう選手達とともに精進して参ります。変わらぬ御支援・御指導をよろしくお願いいたします。

キャプテン 3年 塩出 翔太



私は、この大会で優勝して学んだことが2つあります。1つ目は、駅伝はチームの団結力がないと勝てないということです。私自身、今回の駅伝は走れず、補欠に回り、サポートしましたが、自分の走りたい気持ちを背負って走ってくれたチームメイトの存在があり、駅伝は本当に1年間のチームの姿が出るのだと思いました。2つ目は、私達が大会に臨めるのも、陰ながら準備やサポートを下さる方々のおかげで、大会で走れるということです。見えないところで支えてくださる方々に、常に感謝の気持ちを忘れずに、今後の生活や競技に生かしていきたいです。

1区 3年 森下 翔太



大会記録を更新することはできませんでしたが、チームの目標であった2連覇をすることができて良かったです。個人では、前回1区を走らせてもらい区間9位と悔しい思いをし、今回はもう一度1区を走り、区間賞を獲るという目標を立てて、練習に取り組みました。当日は、プラン通りのレースとはなりませんでしたでしたが、しっかり対応し、全力を尽くす走りができたと思います。そして、目標にしていた区間賞を獲ることができて、本当に嬉しかったです。

2区 2年 中村 海斗



昨年行われた全国高等学校駅伝競走大会では今年キャプテンの塩出さんが抜けるというアクシデントがありましたが、世羅町の方々を含めた「チーム世羅」の力で乗り越えることができました。駅伝はチーム力が大切だという事を再認識しました。先輩方を中心となって作ったチームの凄さ、強さを見させていただきました。私は最上級生となって、3年生を中心に、今年より強いチーム、歴代で一番強いと言われるチームを作り上げたいと思います。そして、大会新記録で3連覇します。個人そしてチームとして、「速さより強さ」を求めて頑張っていきたいと思います。

3区 3年 コスマス・ムワンギ



今回は優勝に貢献できて、とても嬉しかったです。今年も区間新記録を狙って走りましたが、気温がとても低く、風も強く思っていた走りはできませんでした。しかし、最低限の目標だった区間賞は獲ることができたので良かったです。学校に帰って、みんなと会ったときはとても嬉しかったです。世界陸上やオリンピックに出場するために、さらに力を付けていきます。これからも一生懸命練習して、世界の選手と戦い、勝てるようになっていきたいです。これからも応援よろしくお願いします。

4区 3年 吉川 響



今回の優勝で、私は駅伝というのは、走るの7人だけども、たくさんの人の支えやサポートがあるから、自分達は走ることができるということを心から実感しました。初めての4区だったため、少し不安もありましたが、調子も良く、1位で自分のところまで棒を持ってきてくれたこともあり、自信を持って走ることができました。

他校の選手に並ばれることもありましたが、自分の走りをすることに集中しました。1位で棒をつなぐことはできたけれど、個人で区間賞を獲ることができず、満足のいく結果にはなりませんでしたが、しかし今回の走りは自信にもなりました。世羅町に帰ってきて、全校生徒に会って、みんな笑顔になっていました。たくさんの人を笑顔にすることができて、とても嬉しかったです。たくさんの応援ありがとうございました。

5区 2年 小島 悠生



個人のレースを振り返ると満足のいく走りではなかったです。大会新記録まであと3秒。調子が良かったにもかかわらず、区間賞まであと5秒足りなかったことで、少し責任を感じました。次回の大会では、強い先輩達はいません。これからさらに強いチームを作り、3連覇して優勝します。これまでお世話になった多くの方々に感謝して、結果で恩返しできるように、また1年間頑張っていきたいと思います。これからも応援よろしくお願いします。

6区 3年 花岡 慶次



今回の全国高等学校駅伝競走大会では6区を走りました。昨年はメンバーに入ったのですが、補欠としてメンバーのサポートをしました。それから1年間、全国高校駅伝を走るために、日々の練習を大切にしながら過ごしてきました。春先から故障して、走れない時期が長く続いたため、不安になることもありましたが、秋頃から、徐々に走れるようになり、メンバーに入ることができました。そして、6区を任せられ、最初で最後の都大路を走ることができました。1年間、2連覇、大会新記録で走るという目標を掲げて練習してきて、大会記録は更新できませんでしたが、2連覇に少しでも貢献することができ、本当に嬉しかったです。世羅高校に入学した時からの目標が達成でき、本当に良かったです。

7区 2年 村上 響



1区から6区まで棒をつないでくれたチームメイトはもちろん、メンバーに選ばれなかった仲間や先生方、友達、家族などたくさんの人達の思いを感じながら走りました。自分の区間で優勝が決まると思うと、少し緊張もありましたが、優勝してみんなの笑顔が見られると思うと、やるしかないという気持ちに自然となりました。当日は、雪が降る中、風も強く、いいコンディションではありませんでしたが、優勝のことだけを考え走ること、トップでゴールし、西陣織のゴールテープをきることができ、さらに区間賞も獲ることができました。次の大会では、3連覇と大会新記録で優勝することを目標に掲げ、また1年間練習を積んでいきます。今後とも応援よろしくお願いします。



第77回 国民体育大会冬季大会

いちご一会とちぎ国体2022 スケート競技会・アイスホッケー競技会

第77回国民体育大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会は1月24日～30日栃木県日光市で行われた。フィギュアスケートでは成年女子が6位入賞、少年男子が7位入賞を果たし、第77回国体の好スタートを切った。

フィギュア成年女子6位入賞



田村綾音選手(広島文化学園大学)

私は中学三年生の時に初めて国体に出場しました。その時は出場できたということに満足していましたが、年を重ねるごとに広島県の代表選手としてきちんと結果を残したいと思うよう

(写真左)田村選手、(右)は林監督

になりました。少女女子として出場した国体はなかなか結果が残せず、入賞できませんでした。

大学一年生になり、成年女子として出場が決まった時、絶対に良い結果を残し、入賞したいと強く思いました。コロナ禍ということもあり、例年の冬のようにいつでも練習ができるという環境ではなかった為、練習時間が少ない中自分のやるべきことを効率良く練習するということを重視して頑張りました。国体は県代表の二人で行う競技なのでショートプログラムではすごくプレッシャーを感じましたが、落ち着いて演技が出来ました。初めて入賞することができて、練習を頑張ってきた良かったと思いました。

コロナ禍でありながら大会を開催して頂いたことに感謝しています。



(写真左)伊勢選手

伊勢桃菜選手(日本ウェルネススポーツ大学)

今年は、初めて成年クラスでの国体出場だったので、様々な面で不安がありましたが、入賞という評価を頂けて嬉しく思いました。しかし、自身の実力はまだまだ足りず、様々な面でもっと成長しなければならぬと改めて感じました。これから、もっとたくさんの方の心に残るような演技ができるように練習に励みたいと思います。

林喜久子監督

田村綾音・伊勢桃菜組は中学三年生の時少年女子として山梨(甲府)国体に出場しました。それからこの組は北海道(釧路)国体、青森(三沢)国体、そして今回成年女子として栃木(日光)国体に出場しました。中学生だった少女達が成年組になり、実力をコツコツと積み重ね、今回6位入賞を果たす事が出来ました。

広島はリンクが半年しかないシーズンリンクでありながら、岡山・大阪に競り勝ったのは素晴らしいことで、選手を讃えたいと思います。国体に至るまでブロック大会、西日本大会等地道に参加を重ね、自分の伸ばすべき良い所や、失敗を繰り返す自分の弱点を知り、ここまで完成度を上げてきました。彼女たちにとって悔いのない「スケート」にする為に、私も微力ですが共に学び、情報を伝えていきたいと思っています。



フィギュア成年女子6位入賞
(写真左)伊勢選手、(右)田村選手

未来を、ひろげる。



私たちは、お客さまに寄り添い、声に耳を傾け、
真に信頼される〈地域総合サービスグループ〉として
お客さまとともに、この地域の未来をひろげます。

 ひろぎんホールディングス

広島銀行 | ひろぎん証券 | しまなみ債権回収 | ひろぎんキャピタルパートナーズ | ひろぎんリース
ひろぎんITソリューションズ | ひろぎんエリアデザイン | ひろぎんヒューマンリソース

(2021年4月1日現在) [2107]

フィギュア少年男子7位入賞

鈴木零偉選手(広島県立安古市高等学校)

今回の国体は、個人的にはあまりいい演技ではなかったですが、フリーで気持ちを切り替えてまとめられたので、良かったです。三島さんと2人で頑張った結果の入賞なので、次はもっと上位を狙いたいです。

三島悠生選手(崇徳高等学校)

今シーズンはコロナウイルスの影響でなかなか練習時間が取れず、自分のコンディションの調整に苦戦しました。コロナ禍での数少ない試合ということもあり例年とは違った緊張感がありましたが、2人が楽しんで滑ろうと思って演技した結果が今回の入賞に結びついたと思います。

保坂花佳監督

昨年に引き続き、三島・鈴木ペアでの出場でした。2人とも大学受験という大変な時期にも関わらず、たくさんの練習を重ね、本大会では県代表として堂々とした素晴らしい演技を披露してくれました。2人の少年最後の年に入賞することができ、出場した選手達と関係者の皆様に大変感謝しております。



(写真左)鈴木選手、(右)三島選手

美の国あきた鹿角国体2022 スキー競技会

第77回国民体育大会冬季大会スキー競技会は2月17日～20日秋田県鹿角市で行われ、ジャイアントスラローム種目成年女子Bで佐渡仁美選手が見事8位入賞を果たした。

ジャイアントスラローム成年女子B 8位入賞

佐渡仁美選手(農事組合法人芸北おおさ)

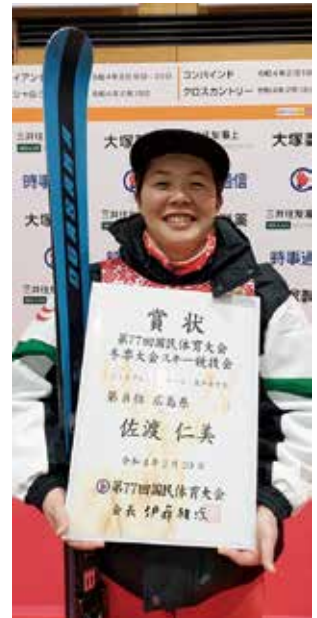
昨年はコロナ禍の為に国体中止となり、国体に向けて練習してきた成果を発揮することができませんでした。

その分、今年の国体に懸ける思いは強く昨年以上に練習に取り組む事ができました。

決して私1人の力では成果は出なかったと思います。家族をはじめ広島県内外に限らず応援サポートしていただいた皆様のおかげで8位入賞する事ができました。

この場をお借りしてお礼申し上げます。皆様この度は応援サポートしていただきありがとうございました。

今後も広島県代表の選手・指導者として活躍できるように努力していきたいと思います。



令和3年度スポーツ少年団顕彰受賞者

日本スポーツ少年団顕彰

表彰登録者

吉野 晴雄(広島市) 平中 和宏(広島市) 山本 義倫(福山市)
山下 智子(福山市)

広島県スポーツ少年団顕彰

単位スポーツ少年団

道上剣友会スポーツ少年団(福山市)
湯田陸上スポーツ少年団(福山市)
海田ジュニアバドミントンスポーツ少年団(海田町)

登録者(指導者、役員、スタッフ)

松本一比佐(広島市) 白川 浩寅(広島市) 田中 誠治(広島市)
世利 孝治(広島市) 森山 善弘(呉市) 岡崎 順治(呉市)
大石 鉄郎(福山市) 用皆磨薩男(廿日市市) 山本 慎也(安芸高田市)

「スーパージュニア選手育成プログラム2021」体験プログラム②

スーパージュニア選手育成プログラム2021のトライアル(選考会)については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から中止にしましたが、感染状況が落ち着いてきたのでトライアルに申し込みがあった方を対象に、希望調査をとり、体験プログラムを実施しました。

12月18日(土)の体験プログラム②は、スケートを行いました。

体験プログラム②のスケートは、広島県スケート連盟のご協力のもと、広島市東区のひろしんビッグウェーブで開催しました。

開催行事では、公益財団法人広島県スポーツ協会の武鍵守強化副委員長から、挨拶をいただきました。



スケートリンクに入る前に、スケート競技(スピード、フィギュア、アイスホッケー)の説明を聞きました。そのあと、準備体操を行いました。そして、スケート靴、肘・膝のサポーター、ヘルメットを借りて、リンクサイドに集合です。

最初に、広島スピードスケートクラブのジュニア選手たちに模範滑走をしていただきました。模範滑走には、全日本ノービスカップで優秀な成績を残した今回の参加者と同年代のクラブの選手にも参加していただきました。参加者たちは、自分とあまり年齢が変わらない選手のスピード感のある滑走を間近で見て、圧倒されている様子でした。



いよいよ、スーパージュニア選手たちもリンクへ入ります。

最初は氷上での歩行練習で、壁から手を離してゆっくり歩きながら氷上に慣れていきます。学年・男女別の3グループに分かれて滑走の練習です。

ゆっくり両足で前に進めるようになったら、片足での滑走、体重移動、止まり方などを教えていただきました。カラーコーンを置いて小さな周回コースを滑走する練習では、最初に比べて転ぶ回数がぐんと減り、上達を感じることができました。

最後は、男女別学年別に、4人から5人一組で一周のレースです。スタートをしたら下ではなく前を向いて滑れ、とアドバイス。ゴールが近くなると気持ちが焦って「滑る」より「走る」になってしまうのは、毎年恒例の風景です。体験が始まったばかりの時、恐る恐る氷に立っていた姿からは想像できません。

それぞれの組の中で上位2着が決勝進出で男女別のそれぞれ上位8人による決勝レースを行いました。接戦が繰り広げられ、転倒してもすぐ立ち上がって一つでも順位をあげられるよう一生懸命滑っていました。上位の8名には広島県スケート連盟から表彰状が授与されました。

この体験がきっかけで、ご家族や友達とスケート場に行く回数が増えることを期待しています。

「快適」に新しいカタチを。

変わり続ける世の中に、技術力で応え続ける。
時代が待ち望む快適な環境をつくり出すために、
総合設備エンジニアリング企業として
さまざまな現場で幅広い工事を手掛けています。
そして、快適な明日を支える、
省エネで持続可能な社会の実現へ。
さらなる成長を続け、技術で未来を施工する、
私たち中電工です。



中電工
CHUDENKO

／ 屋内電気工事 ／ 空調管工事 ／ 情報通信工事 ／ 配電線工事 ／ 送変電地中線工事 ／ リニューアル工事 ／ エネルギー関連工事 ／ 環境関連工事 ／

〒730-0855 広島市中区小園町6番12号 TEL.082-291-7411 www.chudenko.co.jp

広島スポーツ余話 ③

明治期、広島野球のあけぼの～県師と中学

日本に野球が渡来したのは明治維新から間もない1872(明治5)年である。米人教師ウィルソンがバットとボールを持参して来日し、東京大学の前身である当時の「第一大学区第一番中学校」の学生たちと興じた。今年はちょうど伝来150年に当たる。では、広島への伝播はいつだろうか。

広島野球史は「1889(明治22)年ごろ、広島尋常中学校(尋中)で始まった」とされる。広島県体協が1984年に発行した「広島スポーツ史」や広島県高校野球連盟の「創設30年記念誌」(1980年)など、いずれも1889年を定説としている。

これらが根拠としたのは、尋中の校友会雑誌「鯉城」創刊号(1897年)の「野球部報」による。「明治22年ごろ同好の士が盛んに野球を楽しんでおり、野球部(当時はベースボール会)を名乗るのは明治25年だった」とする記述だ。以来、1889年尋中開始説が定着していく。

ところが、1981年刊行の「広島県史 近代2」には「明治19(1886)年に広島師範学校が『西洋遊戯器ベースボール一式』を購入」と載った。出典も根拠も示されていない。確認に走った筆者が見つけたコピー資料は呉市立図書館の市史編さん室にあった。当時の地元紙「芸備日報」の1886年10月28日付紙面片隅に5行、掲載されていた。尋中開始の3年前にさかのぼる。

紙面には「県尋常師範学校は西洋遊戯器ベースボール組、循環球数種を購入(中略)」とあった。ベースボールとは当然、ベースボール(野球)のことであろう。循環球は英国発祥の「クロッカー」という球技の用具である。県尋常師範学校とはのちの県師範学校(県師)であり、主に小学校教員を養成した。なぜ師範学校が野球用具を購入したのだろうか？

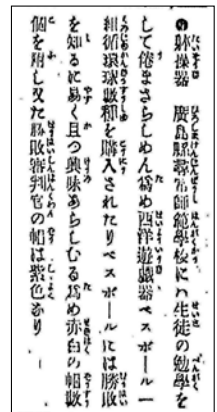
師範の教師、竹本重雄は1882(明治15)年9月から1年余り、東京師範学校(後の東京高師、現筑波大)へ研修派遣された。研修先には体育の専門教育機関、体操伝習所(当時、後に廃校)も含まれ、校内には前年の内国勧業博覧会に出品した各種運動用具が展示されていた。「西洋遊戯器ベースボール用品」もあった。研修を終え、広島に戻った竹本が同じ物を発注したに違いない。それを新聞が記事にしたのであろう。ただし、県師購入の野球用具を学生が活用したかどうかは定かではない。

師範学校と中学校は1880(明治13)年から91(同24)年まで、同一の敷地にあった。広島市竹屋村にあった師範校舎が焼失し、同市下中町の中学敷地内に間借りしたのである。元気盛りの中学生たちは、隣の県師の野球用具に熱い視線を注いだことだろう。加えて、尋中に吉田彦松、県師には片田豊太郎という若手教員がいた。2人は尋中の前身である広島英語学校と一緒に学び、駒場農学校(現東大農学部)の同期生でもあった。農学校はその時代、都下屈指の野球強豪校であった。野球に覚えのある吉田、片田の両教諭は双方の学生たちを鍛えたようだ。

広島地元新聞に野球記事が登場するのは、西洋遊戯器購入から7年後の1893(明治26)年4月6日付芸備日日新聞である。「ベースボール会」の見出しで、県参事官の送別試合があり、尋中、師範の職員生徒が加わったという。紙面に接する限り、ようやく広島に野球が根付いたと思われる。

師範教師、竹本重雄が東京の研修先で手にした野球用具購入を発端に、広島に広まったとみて差し支えなさそうだ。竹本は県師付属小学校主幹や県視学となったが教科書汚職で失脚。尋中教師の吉田はやがて兵庫県立農学校校長、師範の片田も大阪農学校校長に栄進した。尋中はその後、県立広島中学校(県中)、広島第一中学校(一中)と名を変え、現在の広島国泰寺高校へつながる。県中野球部は1915(大正4)年、大阪朝日新聞主催の第1回全国中等学校優勝野球大会に山陽代表として出場した。師範は時を経て戦後、広島大教育学部へ改組した。強豪となったのは蹴球(サッカー)であった。

広島県スポーツ協会広報委員長 渡辺勇一(広島経済大学教授)



1886年10月28日付芸備日報「西洋遊戯器ベースボール」の記述が見える



広島画家、里見雲嶺の屏風絵。明治31年ごろ野球に興じる中学生を描いた(頼山陽史跡資料館図録より)



[引受幹事保険会社]
東京海上日動火災保険株式会社

[共同引受保険会社(2022年4月予定)]
あいおいニッセイ同和／共栄火災／損保ジャパン／
大同火災／東京海上日動／日新火災／
三井住友海上／AIG損保

小さな掛金、
大きな補償

スポーツ安全保険[®]

文化活動やボランティア活動等もご加入できます

スポあんネット



加入手続きは
インターネットから!!

LINE 公式アカウント



友だち募集中!

保険の詳細内容、資料の請求は、
ホームページをご覧ください。
<https://www.sportsanzen.org>

スポーツ安全保険

検索



 公益財団法人 スポーツ安全協会